

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Interrelation of saturated fat, trans fat, alcohol intake, and subclinical atherosclerosis 酸化型脂肪、トランス型脂肪、飲酒とサブクリニカルな動脈硬化病変との関連	
執筆者	
Merchant AT, Kelemen LE, de Koning L, Lonn E, Vuksan V, Jacobs R, Davis B, Teo KK, Yusuf S, Anand SS for the SHARE and SHARE-AP investigators.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 2008; 87: 168-174.	
キーワード	
Saturated fatty acids, trans fatty acids, alcohol, carotid atherosclerosis, ethnicity 酸化脂肪酸、トランス型脂肪酸、アルコール、頸動脈の動脈硬化、民族性	
要 旨	
<p>目的： 飽和脂肪酸、トランス型脂肪酸、そしてアルコールの摂取状況によって循環器疾患のリスクは変わってくるが、サブクリニカルな動脈硬化に対するこれらの影響については十分な研究がされていない。上記の項目の摂取状況と頸動脈の平均内膜厚 (以下 IMT) の関連を検討する。</p> <p>方法： カナダ先住民族、南アジア、中国、ヨーロッパ系からなる、カナダ在住歴 5 年以上の 35-75 歳の 620 人を対象に、地域住民ベースの横断研究を行った。左右頸動脈で標準的 B モードにて頸動脈エコーを施行し、良好に描出された画面上の 6 箇所において IMT を計測しその平均値を平均 IMT として用いた。飽和脂肪、トランス型脂肪、アルコールの摂取状況は、その有効性が実証されている食物摂取頻度調査票を用いて調査した。</p> <p>結果： 多重調整を用いて評価を行った。飽和脂肪の摂取が 10g/日増加するごとに平均 IMT は 0.03mm 増加し (P=0.01)、同様にトランス型脂肪の摂取が 1g/日増加するごとに平均 IMT は 0.03mm 増加した (P=0.02)。多価不飽和脂肪 / 飽和脂肪 (P/S 比) は他の因子を調整して解析したところ、平均 IMT と逆相関していた (IMT の変化量:-0.06mm; P&lt;0.01)。飽和脂肪とトランス型脂肪は独立して IMT と関連があった (IMT 変化量:0.03mm; P&lt;0.01 (飽和) と 0.02 (トランス, 交互作用の P=0.01)。多価不飽和脂肪、一価不飽和脂肪、コレステロール値、脂肪摂取量は IMT と関連はなかった。飽和脂肪摂取量と IMT は中等量以上アルコールを摂取する人 (<math>\beta=0.0001</math>, P=0.79、交互作用の P=0.01) に比べアルコールを飲まない、ほとんど飲まないと答えた人では関連が強くなった (<math>\beta=0.0066</math>, P&lt;0.001)。</p> <p>結論： 習慣的に飽和脂肪、トランス型脂肪を多くとるほどサブクリニカルな動脈硬化の危険はそれぞれ高まり、アルコールは飽和脂肪とサブクリニカルな動脈硬化の関係を弱める可能性がある。</p>	